



位置関係を確認します。赤い四角で囲まれた辺りに南沙諸島はあります。

そして、日本の石油輸入量の70%はサウジアラビア及びアラブ首長国連邦からしています。

ここで子どもたちに問います。「石油は、タンカーと呼ばれる大きな船で運びます。どんなルートを通ると思いますか。」

地図を指でなぞっていると…教室は大騒ぎになります。

「先生、大変です!」「こっちに行けば避けられるよ!」「でも遠回りになるよ!」

そうです。おおよそ以下のルートを通る。つまり、南沙諸島を避けて通ることはできないのです。(避けるルートは時間がかかり、輸送コストも非常に増大します。)



授業では、海賊問題も扱いました。

エネルギー輸送業者の方々が、どれだけの苦勞をして、私たちの生活を支えてくださっているか考える機会になったと思います。

私たちの生活を支える「海の道」シーレーンの授業でした。

感想・振り返り

- ・石炭や石油を、危険がたくさん中で運んでくれていることを知ってありがたみをもって電気などを使いたい
- ・世界がギリギリで作られていて、いつ戦争になってもおかしくないのが怖かった。でもそれが世界の一部分のことが信じられない。もっと未来では安全な世界になってほしい
- ・ただでさえ一日でも耐えられないのに、往復で36日もかかって、しかも死ぬ可能性もあるのに、日本にエネルギーを届けるために行っているのがすごいと思う
- ・今まで石油の運び方なんて考えたこともなかった。サウジアラビアから日本まで石油を運ぶのに遠い以外にもたくさん問題があった。どうすればこの問題を解決できるのか考えたい
- ・海賊なんているなんて知らなかった。電気を消してまで通るなんてとってもすごい。海賊に見つからないように+事故が起きないように安全を気にして輸入してくれている。

☆お便りフォームはこちら☆

<https://forms.gle/ndGkDHTYcmB1bWyU9>

